

2021年9月22日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
第3回 ALPS セミナー

実践事例から学内ワークスタディによる学生支援の可能性を考える

参加者アンケート（オンライン：Zoom）

当日参加者数： 95名 アンケート提出数： 49件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・初めて学ぶトピックであったため、全てが発見となりました。
 - ・他大学の有意義な試みの例を知ることができた。学生に任せることの重要性。
 - ・学生への経済的支援や労働力としての期待だけでなく、「学生自身の学び」という観点の大切さを感じました。
 - ・中村学園大学のS J運営について、多くを学生に任せているというお話が大変参考になりました。
- また、学生に就労の機会を与えるだけでなく、学生の就業意識を育てるインターンシップの側面があることを学びました。
- ・現在、当大学では、部局ごとに募集を行っており、学生はどんなアルバイトがあるのかわからないことが多いと思いますが、それを一元化されている大学があることを知り驚きました。
 - ・大学図書館で卒業生パートを雇用していますが、募集・管理などに課題があり、本日お話をお伺いしてこちらの心構えなどたいへん参考になりました。
 - ・職員の仕事は減らない、という点が知れて良かった。何かの形で導入できないかを考えたいので、現実的に考えるにあたって重要な視点。
 - ・ワークスタディという取り組みを知らなかったのですが、具体的な例を挙げていただきよく理解できました。
 - ・ワーキングスタディという言葉をはじめて知りました。概要、実践事例も知ることができ参考になりました。
 - ・安易に「学生を雇えば」ということを言われることがありますが、やはり運営には相当の労力が必要であると感じました。
 - ・ワークスタディの実例、問題点等、勉強になりました。
 - ・学生に運営、採用、トレーニングまで任せていること素晴らしいと思います。
- 考えてみれば、クラブ活動等、先輩後輩のノウハウの伝達で、きちんと運営できているところが多いですから、任せてみるという事も必要かと思いました。
- ・ワークスタディの実際がよくわかりました。
 - ・スチューデントジョブセンターという体制を学生主体の運営されているという発想が素晴らしいと思いました。
 - ・学生主体の運営を実施していること
 - ・中村学園大学の学生主体の活動が印象的でした。採用の判断や新人トレーニングまで学生に任せているという点に驚きました。
 - ・実際に学生を雇用している事例で、雇用の形態や管理方法を伺うことができ参考になりました。
 - ・中村学園様ではワークスタディをある種組織化し学生中心の運営を行っていることに驚きました。ワークスタディも工夫次第で様々な形で運用できるんだと、可能性を感じました。
 - ・中村学園大学の事例をお聞きし、学生の裁量の大きさに驚きました。学生にここまで任せて成功している例があるという点が新しい発見でした。

- ・ワークスタディの具体的な取り組みやワークスタディに対する教職員の意識が変わってきていることがわかりました。
- ・携わる学生が増えても職員の業務は減らずという点は非常に納得できました。現状同様の感想を持っておりましたが、自身の機関だけでなかったということに少々気持ちが楽になりました。
- ・ワークスタディの指導等を学生に任せるという発想は新しいと感じました。学生が活動に誇りを持っているからできる方法なのかな、と感じました。
- ・学生の方々に、遡及などの作業をしてもらうという点に大きく驚きました。採用する学生の方のレベルなどにもよるかもしれませんが、やはり書誌データを入力訂正などする担当者は、図書館司書の中でも特殊な部門であるため、お話を聞きながら、様々なことが気になりました。
- ・自大学の図書館でも学内ワークスタディで学生に書架整理や蔵書点検をお願いしています。それ以外の業務を今まで依頼したことがなかったため、今回の事例発表を通じ「学内ワークスタディではこんなこともできるのか！」という発見がありました。また、東北大学さんの、学生の声を聞きながらワークスタディを運営されているところがとても素敵で、当館でもお手本にしていきたいなと思いました。
- ・ワークスタディ自体について知らなかったため、大変勉強になりました。
- ・学生の業務範囲がかなり広いこと。特に東北大学の図書館業務についてそう感じました。参考になりました。
- ・図書館での図書返却作業だけでなく、職員が行うような作業も学生に任せている点について参考になりました。
- ・職員のサポートもあるが、学生主体でおこなっているところに感心しました。
- ・一口に学内ワークスタディによる学生支援と言っても、大学により考え方や取り組みが様々であるということが分かった。
- ・事例だけでなく、冒頭にWSの概念や背景を説明いただき、知識を得られました。
- ・中村学園大学様の事例で、学生主体のセンターに職員は常駐せず、各部署から支援する形で運営ができることに感銘を受けました。
- ・コロナで職員の方々も苦しい中であっても、学生のためにと尽くしていらっしゃる姿が浮かびました。
- ・学生による面接やトレーニングプログラムの実施など、自主的な体制が確立されていることに驚きました。
- ・私自身は、とても学生の手を借りたいと思っているのですが、費用の面、周囲の理解をなかなか得られず、いつか今日の講演が役に立つと思って参加いたしました。学部や学年を超えた学生同士のつながり、就業体験・インターンシップとしての役割もあること、コンシェルジェとして、職員より気軽に話しかけられることなど、大変参考になりました。(説得材料にもなる)
- ・SJの仕組みや学生の成長へつなげる取り組みについて理解できた。
- ・学生にこんな大きな事が成し遂げられるのかと驚きました。
- ・学生スタッフのチーム化や、大学業務などでの雇用を考えていますが、本日のセミナーで、採用や昇格の部分も学生スタッフ(リーダー等)が行っているという点は驚きでした。
- ・大学全体でワークスタディができればいいだろうと羨ましく思いました。
- ・ワークスタディについて具体的な事例をたくさん知ることができ、実際に本学で実施する場合の可能性や課題がよくイメージできた。
- ・原則全員を採用されていること、経験者の学生が採用面接を行っていること、業務日誌を記入することなどが新しい発見でした。大変参考になりました。
- ・図書館での学内ワークスタディが、その後の図書館の利用にも結びついているという話が印象に残りました。
- ・学生主体で動いていることを伺い、大変参考になりました。
- ・実際に導入していらっしゃる2校の事例を伺い、大変参考になりました。大学それぞれの状況に応じ取り組まれ

ている様子がよくわかりました。”

・どちらの大学もワークスタディを試行錯誤しているんだなと感じました。色々な事例をお聞きできて参考になりました。

・学生の力というのは想像以上なのだということがよくわかりました。特に、中村学園大学様の事例のように、学生が自分たちで後輩の指導プログラムまで自発的に組み、活動の水準を維持しているということに驚きました。ワークスタディは、学生の経済的支援になることはもちろんのこと、その業務や取組を通じて、学生自身のみならず大学や図書館、職員の学びと成長にも繋がること。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

・外部資金の獲得については、伺いたかった。

・学生に担当してもらう業務の中で個人情報や機密性の高いものをどのように保護していくかが難しそうだと思います。

・採用の基準やマニュアル、トレーニングプログラムなど、教えていただける機会があれば助かります。

・本学でもワークスタディの制度を取り入れておりますが、採用直後は積極的に参加をしていますが、時間が経つと参加率が下がってしまいます。年間を通し学生が業務に積極的に参加してもらう方法、取り組み等ありましたらご教示いただけますと幸いです。

・非常に分かりやすい説明で大変勉強になりました。

・国内大学で実施されている学内ワークスタディの実態というか、全体像がよくわかりません。各機関の特性に合わせて辞意視されているのでしょうかから一括りにして論ずることができるものではないと思いますが、例えば、主目的は経済支援なのか、学生の成長なのか、いまだによくわかりません（政策文書では経済支援、各報告では成長という印象です）。日本の大学のワークスタディ制度については、今後もう少し深く調べてみたいと考えているところです。

・学生の応募人数が上下ないし減少する理由が明確であればお伺いたかったです。

・ワークスタディの活動が授業料免除の時間数に達しない、というケースはあるのか、その場合はどう対応しているのでしょうか。（返金など？）

・学内ワークスタディと既存のTA/SAや学生アルバイトとの切り分け。ワークスタディの概念については何となくわかるのだが、既存のパートタイムやインターンシップとの兼ね合いがよくわからなかった。

・あくまでも、素朴な疑問です。カタカタ語が多く使われていることが気になりました。ジョブ、スチューデント、……。留学生に向けて、日本人学生と同じ説明をすることになった場合、どのように伝えるのか、何の単語を選ぶのか、気になりました。

・疑問点ではなく課題ですが、WSの業務について、勤務日程（期間や時間）により日常的な業務から時期的な業務もあり内容が様々で、学生の学びにつながることを意識した業務内容を組み立てることが難しいと感じています。

・学生に面接、採用までまかせた場合、応募者の経済的支援まで意識できているのか少し疑問に思った。

個人情報の取り扱いなどを考えると、やはりかなり雑務しか頼めないようなので、時給が高い印象を持った。

・もっとスチューデントジョブセンターについてお話を伺いたかったです。学生が自発的に担っている部分が大きい組織ということで、強みも多分にありますが、学生にとって魅力的な組織であり続けなければメンバーや活動の質にも影響がありそうに感じました。今後もセンターが成長し続けていくために、何か新しいことを予定なさっているのであれば知りたいと思いました。

・ワークスタディにおける危機管理面の教育や対策を各大学でどうされているかお尋ねすれば良かったです。

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

・学生ひとりひとり、考えも教育や支援に対する反応が異なると思います。難しいとは思いますが、できるかぎりそういったものに目を向けることが大事かと考えております。

・課題に対して柔軟な捉え方ができることが必要だと感じました。

・下記にも一部記載しておりますが、過去の旅行会社勤務の際のご縁のあった企業様（観光業問わず）に多少ご無理を申し上げつつ、何とか職業体験（インターン）をしてもらえるように、やりとりを定期的にしております。その中で先方がイベント等で臨時に必要な際には有償インターン、という形も含めて、学生の労働力提供等も行い、何とか企業様と、GIVE AND TAKE の関係を築きながら、実際の収入面、体験による学習をしてもらえるように、少しずつですが、実績が出来始めております。何とか今後も産学連携を GIVE AND TAKE が成り立つ形で、進めて、試行錯誤を続けたいと思っております。

・本学では大学院生の SA や入試のスタッフ等の活動はありますが、緊急事態宣言が出ている期間は行ってないようです。

・中村学園大学の事例で強調されていた「学生の主体性」を育てることが、大学に求められていると思います。一方で、どこまでを学生に任せるのかという判断は難しいと感じます。

・教職員からの目線だけではなく、実際の学生の目線を取り入れることが重要だと感じます。教員が学問のディシプリンや最先端の事例を教えることが重要である一方、最近のテクノロジーや社会事情などは学生の方が詳しいこともあるので、教職員と学生が協働していくことがお互いのメリットを高める上で重要だと感じます。そういう意味で、九州大学附属図書館の図書館 TA (Cuter) は、学生協働として特徴のある事例だと思います。

・学生支援新任職員が、学生対応において、何をどこまですればよいのか判断しきれないことが多いと感じる。必要な能力とともに、これ以上する必要はない、してはいけないという範囲を踏まえておくこともまた必要だと思う。

・ワークスタディではないのですが、学修支援のシステムを自主的に利用しようという学生が少ない際に、半ば強制的に利用させるケースを聞いたことがあります。（課題提出の際に「学修支援のシステムを利用すること」などの条件を付ける）それは学修支援のシステムを存続させることが目的となってしまっているような気がします。

・学生の自己評価能力を向上させるために、この仕組みをもっと活用できないかと感じながら聞いておりました。

・図書館員という立場で学修支援を行ってきましたが、担当者の資質・能力・レファレンス経験値により、ガイダンスや授業の内容の質も異なってくるため、決まった台本以外の面での知識、経験値の差による部分が大きいと感じています。

・取り組んでいること（本日のお話にあったような SJ/WS の仕事や勉強・研究など）に対して、面白いと感じることができる教育・支援が必要だと思います。

・現在、図書館再編のプロジェクトを検討しています。教育（授業）と連動した図書館を目指し、勉強させていただいています。また研修会等に参加させてください。

・本日のご講演であったように学生が自ら考えて行動し、1つの事を成し遂げるといった経験は何よりも習得すべきことだと考えます。

・学修支援はどんどん多様化してきていると感じるため、多面的に考えながら支援していくことが必要だと思います。

・当館では、図書館職員によるライティングサポート、論文書き方講座を実施している。レポート提出の機会が増えるテスト期間にライティングサポートデスクを設置し、資料検索や調べ方の指導、レポートの添削などを行っている。講座は利用促進を兼ねてライティングサポート期間の少し前に実施している。

教育、学習支援に限らず、働く上で必要だと思う資質、能力は、忍耐力と共感力、コミュニケーション能力だと

考えているので、学生の内から身に着けてもらえるようワークスタディは有効な手段と考える。

- ・本学では図書館に学生が常駐して学生による学習支援をおこなっております。

現在は、授業がハイブリッドのため図書館に足を運ぶ学生が以前のようには多くないため試行錯誤し活動しています。

・大学では学生のすぐ側に働く社会人がいるので、学生と職員に交流の場を設けることでお互いに良い刺激があると思います。今回のセミナーでもお話がありましたように、ワークスタディはアクティブラーニングの実践の場になり得ますし、学習支援のひとつと捉えてより多くの学生に参加してもらえるよう展開していければ良いのではないかと考えます。

4. オンラインセミナーを受けてみて、ご不便に感じたこと、改善してほしいことがありましたら、ご自由に記入してください。

- ・大変受講しやすかったです。
- ・ありがとうございました。
- ・短時間ということもあり集中して聞くことができました。
- ・音声もクリアで進行もすばらしく、快適に視聴させていただきました。
- ・できれば事前に（5分前などでも）資料を入手させていただければ大変助かります。
- ・質疑応答、情報交換の時間が少ないこと。
- ・洗練されていて受講しやすかったです。
- ・オンラインのため、参加できたと思っているので、大変満足しております。
- ・特に不便はありません。対面より便利な点しかないと思います。強いてあげるのであれば、アーカイブがあれば有難いと思います。”
- ・ウェビナー講座のため難しいかもしれませんが、もっと意見交換ができればよりよいと思います。
- ・セミナー内の発表資料が配布されるのかされないのかが早い段階で分かるとありがたいです。
- ・今後も、このような形であれば、受講しやすくと考えています。
- ・全くありません
- ・スムーズな運営をありがとうございました。

5. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・本日は貴重なお話をいただきありがとうございました。
- ・貴重なお話ありがとうございました。具体的な事例をお話いただき、とても参考になりました。
- ・本学もコロナ禍で学生の経済的な支援が課題となっていますので、他部署と連携しながら取り組めればと感じました。有意義なお話をありがとうございました。
- ・前回はCOIL型学習についてで、いずれも興味深く、発想のきっかけを得られて有意義だと感じました。
- ・あくまでも学生支援を目的としており、職員の負担軽減は大きく目指していない場合もあることを理解しました。

職員の負担軽減にもつながるような取り組みがあればより普及が進むのではないかと感じました。

- ・大変興味深く聞かせていただきました。実践は難しいですが、知識として備えておいたほうが良いと感じました。ありがとうございました。

・就職サポートの職員をしておりますが、この春に実際に旅行会社勤務→観光学科のある大学勤務になり、いかにこの状況下でも、観光業の一部を感じて貰ったり、その他の業界を知ってもらうか、に試行錯誤しております。その一つのアイデアとして学内ワークスタディに関しては勉強になりました。一方一般企業（旅行会社）ではピーク期に派遣社員さん・アルバイトさんに頼る形が定着していたので、教える→任せる→フォローする、というルーティンは定着していました。その意味では、もっと大学でも同じように、学生の生活支援・職業体験、の意味も含め、定着すればいいな、と思う点と、各大学だけで取り組むのは難しい点もあるので、こういった機会は非常に貴重だった、と思います。後は予算組みの意味としては、文科省より安定したサポートがあれば、とは思いました。（中小私大では、学生定員確保が達し得ないと予算がひっ迫する側面もあるため）

・クロージング後の雑談も拝聴させていただきましたが、こういう雰囲気ですごくばらんにお話できる機会があればいいですね。

・終了後のパートも、少し拝聴していました。そのパートも含めてとても勉強になりました。ありがとうございました。

・受講させていただき誠にありがとうございました。具体的な学内行事・図書館における雇用例を挙げていただきとても参考になります。

・以前、大学図書館に勤務してました。そのときはやはり学生にスタッフとして勤務してもらっていました。返却された本を書架に戻す作業や夜間開館/土曜開館を学生スタッフに担当してもらい大変助かりました。しかしながら、突然授業が入ったり体調不良でアルバイトに入れなかったり、アルバイトのシフトが入っているのを忘れて帰ってしまう学生もいて管理運営面では困ることもありました。それでも学内で働きたいという気持ちを持っている学生が毎年複数名いてくれて、蔵書点検などの力仕事にもかかわってくれて感謝したことはたくさんありました。学生スタッフに気持ちよく働いてもらうための工夫や業務内容を理解してもらうための説明のしかたなど職員として勉強させていただいたということをお二方のご講演を拝聴しながら思い出しました。

・セミナーの後のフリートークがよかったです。

・コロナ禍ということもあり、なかなか他大学の取り組みを直接見ることができない中、非常に貴重な学びとなりました。また他の大学の取り組みも見たいと思いました。本日は御忙しい所本当にありがとうございました。

・学内ワークスタディについての報告は少ない（ステューデントアシスタント＝SAに関するものは比較的多いのですが）ので、貴重な勉強の機会となりました。ありがとうございました。

・本日の講演を拝聴して、以前別の機会で聞いた海外大学事例を思い出した。

イギリスで、学生間の選挙によって選ばれた代表者に対して給与を支払って、大学の意思決定に参画している事例を聞いたことがある。日本でも本日紹介があったスチューデント・ジョブをきっかけとして、学生自身が大学運営（意思決定）に関わる組みや制度があると、学生と法人の双方にとって、よりよい大学づくりに繋がると感じた。

・中村学園大学の全学を挙げての取組は凄いですね。経済的に苦しくて大学進学を迷っている高校生やその保護者に、この制度の存在を伝えることで、学生確保にも有効に働いているのではないかと思います。また、学生には、ワークスタディに参加するのがある種当たり前のようになっていて、ワークスタディに対する好循環が学内に生まれているのかなと思います。いずれにしてもとても参考になる取組ですね。

・ありがとうございました。

・本日の内容も大変勉強になりましたが、中村学園の岩尾様が私が最近読んで気に入っていた【ハンナのいない10月】の作者でいらっしやったことに思わず、職場で声をあげてしまったことです。

様々な驚きをいただけたセミナーを受講できたことに感謝します。ありがとうございました。

・学内ワークスタディ業務を担当しているため、普段聞くことのできない他大学の取り組みを伺う機会はとても貴重で有難かったです。今後の業務に活かしていきたいと思います。

・待機画面の説明や流れも非常にスムーズで、オンラインセミナーを実施する上での参考にもなりました。

今回は参加させていただき、ありがとうございました。

・ありがとうございました。

・よく理解できました。ありがとうございます。

・途中で休憩があり、よかったです。

・ご講演の中でも紹介がありましたが、オンライン開催ということもあり、実際に学内ワークスタディに参画している学生さんにもご出演いただき、生の声などお聞きできればと思いました。

・コロナのおかげで、千葉大学までお伺いせずにセミナーに参加できることは大変有難いです。可能でしたら平常時に戻った際も、遠隔からの参加形式を残していただければ幸いです。職員数が少ない中、職場にいながら、往復の移動時間なく受講できるメリットは大きいです。

・大変勉強になりました。ありがとうございました。

・本題とはズレますが、学生が行った展示がヒントになりました！「文系が読みたくなる理系の図書・・・」これを、学部置き換えて、展示ができる！と良いヒントをもらえました。

・貴重な現場の取り組みを伺って勉強になりました。ありがとうございました。

・とても参考になりました。ありがとうございました。

・本日の内容は、私どもが取り組みたいと考えているものがまさにお話しされており、大変参考になりました。また機会がありましたら、もっと深くお取り組み内容やご意見交換ができれば幸いです。ありがとうございました。

・図書館職員なので、東北大学の図書館におけるワークスタディが大変参考になりました。

・学生への業務を用意したり、指示を出したり、出勤の管理をしたりする対応が増加するので、職員の業務軽減とはならない現実も、よくわかりました。

・今回のイベントに参加できてとても嬉しいです

・オンラインイベントなどオンラインを活用し成功したイベントや活動をもっと知りたいです。

・学生と職員、大学の相互作用で全体が向上していければ理想だと思います。まずは学生にとって誠実な職員であることから始めようと改めて思いました。ありがとうございました。

・我妻様にご紹介いただいた、アメリカのFWSプログラムは、初めて知った事業で勉強になりました。政府が大々的に予算措置する仕組みは率直にすごいなと思いましたが、日本では、各大学がどのように大学の活動の中にワークスタディを位置付け、予算を取っていくかが課題だと感じました。

岩尾様にご発表くださった中村学園大学様での取り組みは、全学的に体系化されており、また学生が主体的に運営に携わっていることに、とても驚きました。ワーク・スタディで学生に業務を依頼するときに、職員側でしっかりコーディネートしなければ・・・と思ってしまうのですが、学生を信じて任せることも学生・職員双方にとって大切なのではないかと感じました。

永井様のご発表では、職員と学生と図書館は見えない紐でつながっていて、お互い成長を続けていくのではないかと、という話が印象に残っています。仰るように、事前準備や管理の負担が大きいことはまさに私も感じていることで、しかし学生・図書館・職員のいずれの学びと成長にも繋がるということをモチベーションに取り

組んでいきたいと思いました。また、東北大学附属図書館様の中で、具体的にどのような業務をワークスタディの学生さんたちに依頼されているのかや、どのようにコミュニケーションをとっておられるのか、など具体的な詳細をお伺いできて良かったです。

お三方とも貴重なお話をありがとうございました。”

6. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

- (1) a. 千葉大学外の方 45名 b. 千葉大学内の方 4名
(2) a. 学生 1名 b. 教員 5名 c. 大学職員(図書館職員を除く) 12名 d. 図書館職員 29名
e. 出版関係 0名 f. その他 2名

7. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナー及びシンポジウムの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前：() ご所属：()
()

電子メールアドレス： 申込時に利用したもの それ以外 ()
ご協力ありがとうございました。

※ 11名が新規に継続的な情報提供を希望